



2019 年 (令和元年)
8月号 (No. 891)

公益社団法人
日本山岳会
The Japanese Alpine Club

定価 1部 150 円

会員の会報購読料は年会費に
含まれています

URL ● <http://www.jac.or.jp>

e-mail ● jac-room@jac.or.jp

1000 km を超えるロングトレイル 「みちのく潮風トレイル」が全線開通

東日本大震災からの復興を願って環境省が取り組んできたプロジェクトの一つ「みちのく潮風トレイル」が6月9日、全線開通した。三陸海岸を中心としたトレイルだが、「海のアルプス」やリアス海岸など変化に富んでおり、登山のエントリー層や厳しい山行からのリタイア組にとつて、山歩きとはひと味違った「歩く旅」が楽しめるのではなからうか。

みちのくトレイルクラブ 佐々木豊志

1865年、ウインパーのマッターホルン初登頂から始まった「アルピニズム」は、誰も登頂してない山に登ることだった。誰も到達できなかった高みを目指し挑戦する行為は、現代の人間社会のあらゆる場面でも脈々と存在してきたと思う。私自身の青少年期を振り返ると、盛岡で繰り返し登った岩手山、大学時代に続いていた

山登りで、生き方の姿勢を試されてきた気がする。1995年、東京暮らしにピリオドを打って家族と故郷に戻り、栗駒山の山腹に自然学校を建設したのも、自然から学んだ生き方そのものだ。しかし、自然学校は2008年の岩手宮城内陸地震で被災し、避難指示により暮らしと生業の拠点を失った。このとき三陸沿岸部の

目次

| | |
|-----------------------------------|----|
| 1000kmを超えるロングトレイル | |
| 「みちのく潮風トレイル」が全線開通 | 1 |
| 令和1・2年度新役員紹介 | 4 |
| 自然保護全国集会をさいたま新都心で開催 | 6 |
| さんけん通信 | 8 |
| 宇野会員の蔵書「ふな文庫」が北大山岳館へ | 9 |
| 中村保さんが「空撮ヒマラヤ越え山座同定」を出版 | 10 |
| 日本山岳会会員としての矜持をもって活動を―「落書き事件」の顛末から | 11 |
| 活動報告 | |
| 図書委員会／山行委員会 | 12 |
| 支部だより | |
| 埼玉支部／越後支部 | 13 |
| 図書紹介 | 15 |
| 新入会員 | 16 |
| 図書受入報告 | 16 |
| 会務報告 | 17 |
| ルーム日誌 | 18 |
| 会員異動 | 18 |
| INFORMATION | 18 |
| 編集後記 | 19 |

▶日本山岳会事務(含図書室)取扱時間
月・火・木 10~20時
水・金 13~20時
第2、第4土曜日 閉室
第1、第3、第5土曜日 10~18時

方々に多大な支援を受けた。2年半の避難生活を経て再建へ向かうとした矢先、2011年の東日本大震災で施設の閉鎖に追い込まれ、再び生き方を試された。私は3・11直後から被災地へ入り、アウトドア関係者とともに沿岸部の支援活動を続けた。震災から4年後の2015年3月、仙台で開催された第3回世界防災会議に訪れた東北地方環境事務所の課長に、「みちのく潮風トレイル」事業への参加を依頼された。東北に生まれ、東北で育ち、東北の山々や海、三陸の被災地に想いがあつた私は、このプロジェクトに関わることを決めた。



岩手県洋野町。有家の海岸線を歩くルート

復興の願いが込められたトレイル
みちのく潮風トレイル／Michi-noku Coastal Trail (以下MCT)



岩手県大船渡市。漁港の脇を通るルート

年を迎える「長距離自然歩道」という施策を用いて、被災沿岸部の持続可能な地域づくりを目指し、豊かな自然と地域の暮らしを未来に引き継ぐことが目指された。既存の道と、歴史・文化・豊かな自然を背景に育まれてきた人々の営み、山・川・海の恵みである食など地域資源を活かし、遠方から人を呼び込み、復興に寄与することを目的とする。

MCTはおよそ3つの地形的特徴を持つ。海の底から隆起した台地が特徴的な北部。「海のアルプス」と呼ばれ、海面より200mも立ち上がる断崖を通るルートはアップダウンを繰り返し、登山に慣

れた私でも難儀する上級者コース。鶴の巢断崖など圧倒的な断崖絶壁とエメラルド色の海が美しい。

続いては、河川による侵食で谷が沈降し、海面上昇も相俟ってできた入江が続くリアス海岸が始まり、半島をいくつも巡る。侵食が進むと多島エリアになるが、東松島、塩釜周辺の浦戸諸島は、度重なる隆起・沈降と侵食により日本三景の一つに数えられる景観を織りなす。

南には、東北で最も広い仙台平野が広がる。北上川、鳴瀬川、阿武隈川、名取川などを渡り歩く沖積平野で、今ものどかな田園風景が広がる。どのエリアも、そこには人々の営みがある。東北の温かい人々との触れ合いも、この道を旅していく途上でこの上ない魅力となる。1000kmを超える道のゴールを想像することは難しく、生活文化、季節も移ろう。それが登山と異なる「歩く旅」の道、ロングトレイルの醍醐味だ。

4県28市町村を通過

2011年3月、故・加藤則芳氏(作家・バックパッカー)の「東北の沿岸にロングトレイルを」という提言からこの構想はスタートし

た。保護官が沿岸部を歩いてルートの大枠を示し、識者や事業者と協働し、地域住民とワークショップを重ねルートが選定された。八戸から相馬まで、被災した沿岸部を舐めるように歩く。自然は変わらずそこにあり、我々人間が築いた人工物は破壊され、痛々しい姿を横たえる。こうしてたくさんの魅力と厳しい自然の現実を直視させられるルートが決まっていった。

ルート策定が進むにつれ、維持管理、利用促進、継続に関わる課題が多数浮上し、2015年から我々民間と協働での管理運営計画策定が開始された。MCTは4県28市町村を通過する。主に既存の道をつないでおり、整備は市町村など管理主体が行なう。継続のためには「1本につながったロングトレイル」の価値を共通認識として持ち続け、活用するために、維持管理と利用推進を表裏一体のものとして市町村に働き掛ける機能・機関、体制が必要であった。全市町村や地域関係者へのヒアリングと全線の現地調査を繰り返す実地、現地保護官を含む関係者による度重なる協議を経て、憲章や運営体制が作られた。



宮城県南三陸町。雪景色の立東山山頂からの展望

トレイル沿線の6つの施設が「サテライト」として運営に携わる。「みちのくトレイルクラブ」は、名取トレイルセンターの運営と同時に、全線の統括本部を担う。全サテライトと定期的に連絡会を開催し、全線の管理、利用促進に関する情報を集約し、発信する。各サテライトは、28市町村のうち3〜10の近隣市町村を担当し、日常的な連絡連携に加え、年に2回、地域連絡会を開催し、整備状況、利用促進について共有する。統括本部は全12回の連絡会に出席し、顔の見える関係を構築している。全線の状態を把握するため管理台帳も作成され、1000を超える路



体番号で管理者も把握し、利用者からの意見、課題に迅速に対応できるように準備した。

今見直したい「歩く旅」の魅力

また、「歩く旅」が長く文化として定着している欧米諸国への広報にも力を入れている。欧米人はよく歩き、自然の中で過ごすことを好む。長期の休みが取れない日本人にとって何週間も歩く旅は馴染みがなく、歩く旅の文化は、宗教的背景の下に残るに留まる。現代社会において、人間の回復をうたいスタートを切った長距離自然

歩道の役割は今、改めて見直されてほしいが、インバウンドの力をしばし借りることになる。また、既存の整備ボランティアの情報収集や、ハイカーなどによる整備ボランティアの体制構築も進めているところだ。

そのほかHPの作成や、ハイカーの計画と歩きやすさをサポートするデータブック作成など、少しずつ利用促進の取り組みを進めている。7月には全線踏破証の運用も開始し、今後、自治体ごとの区間踏破制度の検討に入る。

みちのく潮風トレイルは、東北の復興を願うプロジェクトであり、関わる方々の想いを結集して、新しい仕組みを作ってきた。未曾有の大津波によって多くを失った被災地に新たなモノを創り上げる作業は、まさにウインパーの『アルプス登攀記』に通じる。

みちのく潮風トレイル全線開通記念式典・シンポジウムで、1000 kmのトレイルが国内外に紹介された。構想から8年、決して簡単に達成されたモノではなく、様々な難題を多くの関係者がともに一

つ一つ解決してきた賜物である。

式典の最後に挨拶の機会を得た。「開通の日を迎え、ようやく舞台ができた。今後この舞台で何が演じられるかが、このトレイルの未来です」と話した。この舞台に立つ方々はたくさんいる。ハイカーはもちろん、28市町村の住民、自治体、観光事業者など、多くの皆さんがつながってこそ未来だ、と思っている。

(青森大学総合経営学部・経営学科学科長/NPO法人みちのくトレイルクラブ代表理事)

令和1・2年度新役員紹介

先ごろの総会を経て新たに着任された役員の皆さんに自己紹介をさせていただきます。①会員番号 ②役職 ③担当委員会やPT、WGなど ④好きな山域や登山スタイルなど

山本宗彦(やまもと・むねひこ)

①9217

②副会長

③YOUTH CLUB(青年部・学生部)、遭難対策委員会、山行委員会

④多くの山に興味・関心はありますが、今は劔岳とその周辺に集中して、自分でラインを引いたルートを毎年、冬に目指しています。

私は「登山はスポーツではない。信仰である。」と考えています。それは、登山が自分の経験と智慧と技術、そして、体力を信じて自身が絶対になわなない相手の懐に入っていく行為であり、山は人を選ばない以上、登る私たちが私たちのためにルールを作り、そして、それを私たちが守る、という行為だと思っております。

私は昆虫を求めて野山に分け入ることの延長で山そのものを目指すようになりましたが、大学山岳部での訓練を経て、その後の様々な登山の中での経験と、そこで得

た人とのつながりが、人生において最も大きな宝物となりました。ぜひ一人でも多くの方が、山をやっている良かったなあ、と感じられるような、豊かな登山を実践してほしいと願っています。

坂井広志(さかい・ひろし)

①8798

②副会長

③支部事業委員会、資料映像委員会、自然保護委員会、科学委員会

出身は千葉工業大学山岳部、現役4年間で約370日、オールラウンドに山登りに邁進していました。次第に海外の高峰登山へのあこがれが強くなり、卒業直後の1980年に日本山岳会学生部インド・ヒマラヤ登山隊の計画を知り、参加したのが入会のきっかけでした。その後は母校の海外登山(1981年カンジュット・サール西壁登頂、1988年マッターホルン、グランド・ジョラス両北壁登攀、1995年ナンガ・パルバット北

面新ルート登頂)を行ないつつ、国内の登山も継続して行きました。

1999年から4年間、理事(高所登山研究委員会担当)として在籍した際、2001年にインドより東カラコルムの合同登山の誘いがありました。直後、9・11テロ発生でカシミール紛争が激化するなか、翌2002年に、日本人として約1世紀ぶりのカラコルム峰到達と7030mの未踏峰の登頂に成功いたしました。

理事を退任した後は仕事に専念していたため、登山界の現状には疎い状況です。このたび再度理事(副会長)となり、日本の登山文化や自然環境を考えながら、日本山岳会が継承してきた思想や理念、伝統を大切に、登山界全体の活性化につなげていきたいと考えております。

萩原浩司(はぎわら・ひろし)

①13057

②常務理事

③図書委員会、会報編集委員会、「山岳」編集委員会、「山の日」事業委員会

④奥多摩・奥武蔵などのウラヤマ散策から、未踏の山を目指したヒ

マラヤ登攀まで、オールラウンドに楽しんでいきます。

栃木県の出身で、幼少時代から山好きな父の影響で日光や那須の山々を歩いていました。高校時代は山岳部に入り、雪山と岩登りを経験。大学でも山岳部に入部し、以降、岩、雪、沢、氷、山スキー、海外登山と、様々な山行スタイルを実践しています。

大学卒業後は山と溪谷社に入社。「山と溪谷」「ROCK&SNOW」編集長などを経て、現在は山岳図書出版部部長職に就いています。

日本山岳会には99年の大学山岳部監督会議をきっかけに入会し、2009年の理事就任の際には「山の日」制定プロジェクトの担当となりました。以後、「山の日」運動に関わり続けています。

このたびの理事就任に当たり、「山の日」に関連した山の広報活動や、会報をはじめとする様々なメディアを通して、より安全で楽しい山の世界を一人でも多くの人に伝え、山岳会の繁栄につなげていきたいと考えています。

神尾重則(かみお・しげのり)

①10580

②理事

③医療委員会

④ネパール、ダウラギリ山群ドルポ地方。テレマーク・スキー

大学卒業後、ツクチェ・ピークの南西稜を初登し、ヒマラヤとの関わりが生まれました。東京医科大学の早田教授の下、肺癌の診断と治療のかたわら、エヴェレスト街道のペリチェ診療所で、高山病の治療と研究に従事。多くの登山家や探検家の医学的サポートを行なってきました。その後、ガッシャーブルム主峰など8000m峰にも挑戦し、最近ではアララット山やダマバンド山に登頂しました。

チベット国境に近いネパールのドルポ地方は縁を感じる聖地で、教育と医療の支援のためのNPO（大谷映芳理事長）活動を、1996年からささやかに継続しております。

貝原益軒は『養生訓』で、「心楽しむべし、身は勞すべし」と喝破します。「老いるにつれて若さが際立つという逆説を、可及的に演じるためのヒントが隠されていると考えます。

西多摩の日の出町で地域医療を

実践しており、診療が山行のサブレッサー（抑制因子）となります。しかし、「雪と温泉と酒」のトライアングルを求めて、令(うるわ)しく和(なご)やかに、山をさ迷い続けたいと思っております。

清水義浩(しみず・よしひろ)

①11907

②理事

③資料映像委員会、デジタルメディア委員会

④低山からアルプス縦走、沢や冬山、山スキーなどオールラウンドに山々を楽しんでいます。特に山の三角点を求めての山行が大好きです。

札幌生まれの札幌育ちで、生粋の道産子です。大学のWV部で大雪山などを縦走して、北海道の雄大な大自然に魅せられ登山に興味を持つようになりました。地形図を見ながらのマップ・トレッキングにはまり、今では三角点を求めて多くの山に登っています。

日本の山々は四季折々、様々な表情を見せてくれ、楽しませてくれます。その山々に魅せられる、登山は、誰でも楽しめるスポーツです。登山の楽しみ方も各人それぞれで、多くの楽しみ方ができます。

会員、個々人の様々な登山スタイルを大切に、JACのこれまで築き上げてきた伝統を継承しながら、会の活性化につながるよう、微力ながらJAC活動に力を注ぎたいと考えていますので、ご指導をよろしくお願いいたします。

飯田邦幸(いいた・くにゆき)

①12207

②理事

③記念事業委員会、自然保護委員会、家族登山普及委員会

高校、大学と山登りを楽しみ、卒業後は社会人のクラブに入って登山を続けてきました。あこがれの日本山岳会に入ったのは遅く、50歳くらいのときでした。60歳を過ぎた2年前から家族登山普及委員会に入り、活動しています。

今回、理事に就任させていただき、記念事業委員会と自然保護委員会の担当理事となりました。どちらも日本山岳会にとっては、とても大切な委員会だと思います。

会員の減少を食い止め、新規会員を増やしていくことが急務と言われていますが、両委員会とも外に向かつての働き掛けができる委員会です。そういう意味で、日本山

岳会の歴史をアピールし、新しい発想で自然保護などの活動を展開していきたいと思えます。皆様のお力をお貸しくください。

柏 澄子(かしわ・すみこ)

①13088

②理事

③総務委員会

④山や自然の中で行なう活動は、なんであれ好きです。

中学1年生のとき『処女峰アンナプルナ』を読み、空の雲を眺めているのだらうかと、山にあこがれたのが始まりでした。

本会では、2012年から4年間、「山」編集人を務めました。担当最終号で、故大久保春美副会長とYOUTH CLUBの女性会員たちの座談会を掲載したことを覚えています。このころから女性や若い会員が増えたという印象があります。

理事としての抱負は、編集人のときと同じです。本会が持つ歴史と実力を、現代的な新たな試みや若い登山者たちへの登山文化継承と融合させることが重要と考えております。担当の総務委員会の役

割は、プロジェクトの遂行を円滑にし、会員の皆さんが気持ち良くいられる環境づくりだと認識します。ご指導ご協力のほど、お願い申し上げます。

黒川 恵(くろかわ・さとし)

① 7547
② 監事

中大附属高校から中央大学を通じて山岳部に所属し、卒業後は山岳図書専門出版社から山岳旅行業に転身し、40有余年がたちました。この間、日本山岳会では海外連絡委員会、指導委員会(遭難対策)、学生部指導など登山活動に直面する委員会活動に従事してきました。また、2013年から1期、本会副会長を務めました。

2015年4月に発生したネパール大地震の義援金募集では、日山協はじめ山岳6団体からも大きな支援が寄せられました。税額控除団体として、本会ならではの役割を果たすことができたと考えております。この税額控除を警察や防災ヘリ発動による山岳遭難救助費用負担の一助として、寄附金募集に活用できないかと思案しています。

REPORT

自然保護全国集会をさいたま新都心で開催

実行委員長 川口 章子

2019年度自然保護全国集会は、埼玉支部と共催でさいたま新都心「埼玉県男女共同参画推進センター・セミナー室」を会場に7月6日(土)～7日(日)の2日間の日程で開催した。

当日は自然保護委員会担当・飯田邦幸理事、本部自然保護委員会メンバー、そして北は北海道、南は四国の14支部の自然保護委員会委員長、支部委員、会員ら50名を超乎参加者を得て開催した。

本年度は「生物多様性と自然保護」をメインテーマに、6日は基調講演と分科会の後、懇親会は会場をホテルブリランテ武蔵野・エメラルドに移して開催した。7日は分科会報告、支部報告をして、午後は北本自然観察公園に移動し自然観察会を行なった。

7月6日 基調講演・分科会・懇親会

埼玉支部の絶大なご協力を得て開催することができたと、司会進行を担当する近藤雅幸・自然保護

委員の感謝の挨拶に続き、埼玉支部を代表して松本敏夫支部長が、今日の会場のさいたま新都心は、国の官庁の一部が移転するというところで平成12年に造られた場所で大宮市、浦和市、与野市の旧3市にまたがり、旧国鉄埼玉操車場跡地です、と説明された。続けて埼玉支部は今年10年目に入るが、支部の自然保護委員会は設立当初からあり、森づくり・自然観察会・シカの食害調査などに熱心に取り組んでいる、と報告された。今、埼玉県の山岳自然保護に関しては、登山者が増え登山道がオーバーユースで荒れていること、さらに埼玉県はここ10年トレイル・ランニングが盛んで、埼玉県警察山岳救助隊の話によると、トレランは競技なので登山道を横にそれて通り植物を踏み倒すなどの害が出ていること、トイレ問題もあるとのこと。今日ここに集まった皆さんと

交流を深め、意義ある集会にした、と話された。

次に公益社団法人を代表して新



プロジェクターを駆使して2つの基調講演が行なわれた

自然保護委員会担当・飯田邦幸理事は、「日本山岳会の中で自然保護は一つの柱になる」と古野淳・新会長と話したと紹介され、120周年記念事業として、自然保護を柱にした全国の会員が参加できる企画を提案できないだろうか、と話された。

それぞれ挨拶ののち、基調講演が行なわれた。

基調講演①は、一般社団法人埼玉県植物防疫協会事務局長・埼玉昆虫談話会会長の江村薫氏で、「生物多様性と自然保護」と題し1時間、プロジェクトによる資料映像を使って講演された。

生物多様性について地元、埼玉



観察会の会場となった北本自然観察公園 写真提供:北本自然観察公園

県の動植物を取り上げて、切り口を昆虫から始められた。微生物を含む動植物は多く、生物多様性を考えるには、的を絞るシンボルを見付けて自然を考えるが良い。埼玉県ではシンボルを県民手帳に掲載していて、昆虫はミドリシジミがシンボルになっている。ミドリシジミがシンボルになつたいきさつは、埼玉県は湿地性植物のハンノキが繁殖しているが、そこにミドリシジミがいて「これが埼玉県の原風景だ」ということ

で決まった。今もミドリシジミは埼玉県中にいるが、すばらしい決め方だった、と。

この例でも分かるように、シンボルがあると調べやすいし、調べるといろいろのことが分かつて保全につながる。いろいろなシンボルをつくって、生物多様性を広げていくと良い。

最後に、昆虫採集が禁止されており保護の種を決めることは必要だが、総合的に生物の管理をして保護地域を決めて、それ以外の所では採集をしてもいいようにはできないだろうか、と提案をされた。

基調講演②は、入間市環境アドバイザー・埼玉支部自然保護委員の中村直樹会員が「武甲山の稀少野生生物」と題し1時間、プロジェクトによる資料映像を使って講演された。山に登って花を見て、生物の多様性を実践しているので、植物に限定して話を進められた。

埼玉県の県木はケヤキで、県花は絶滅危惧種で天然記念物でもあるサクラ

ソウで、同じ所で育った。この2種の植物は、荒れる荒川の氾濫でケヤキの小枝が川上から流れて来て育ち、大木となり現在も残っているが、湿地の河川敷は人間の手が入り、湿地で育つサクラソウは今、危篤状態になっている、と報告された。

テーマの武甲山は田中澄江さんの『花の百名山』でも取り上げられ、セツブンソウが紹介されている。この後、武甲山で撮影された絶滅危惧種の花々が美しい映像で紹介された。

基調講演の後、参加者は3つのテーマの分科会に分かれ、ディスカッションが行なわれた。

第1分科会は「生物多様性と自然保護の関わり」をテーマとして「日本列島の狩猟文化通誌―人と野生の動物たちとの関係」を埼玉支部自然保護委員の鴨志田隼司会員が講演され、ディスカッションが行なわれた。

第2分科会は「絶滅危惧種の保全」を基調講演された中村直樹会員が話された。植物の分類体系のAPGについて、都道府別の絶滅危惧種を知る方法、保全する絶滅危惧種を記録し、活用するにはど

うしたらいいのかと提案され、ディスカッションをした。

第3分科会は「山の自然を守るためにできること」をテーマに、山田和人・自然保護委員のコーディネイトで進み、身近で奥深い話題だけに多くの意見が出た。

7月7日 分科会報告・支部報告・自然観察会

開催2日目は3分科会の報告から始まり、その後、支部報告と進み終了した。

支部報告は当日参加した14支部が報告し、終了後、北本自然観察公園に各自移動し、参加者23名で観察会を行なった。

観察会会場の北本自然観察公園は、埼玉県の「里地里山」の自然環境を残しながら、野生の生き物が暮らしやすいよう、そして、来園者が自然に親しめるように整えられた公園である。隣接する荒川に造られた「荒川ビオトープ」とともに、野生の生き物の生息場所として指定管理者・公益財団法人埼玉県生態系保護協会が管理している公園で、約2時間の観察会を行なったのち、それぞれ自由解散となった。

さんけん通信

山研にやっつて来たツキノワグマの「善六」

元川里美

5月中旬の静かな夕暮れどき、1頭のツキノワグマが山研の庭にやっつて来ました。

そのクマに気付いたとき、私は2階の窓の戸締まりをしていました。気配を感じて窓の下に視線を落とすと、まばらに地面を覆い始めたニリンソウの間で、漆黒の塊がかすかにうごめいていました。彼(彼女?)はカツラの木の下でしきりに何かを探っているようでした。窓を閉めた音は明らかに聞こえていたはずですが、さほど気に



山研の庭でイラクサを探し回る「善六」

する様子もなく、頭を小刻みに動かしては食べ物を探しています。そのうちに腹ばいになり後ろ脚を投げ出してイラクサの芽をかじり始め、おおかた食べ尽くしてしまふと、立ち上がって少しづつ歩みを進め、正面側へと移動してきました。そこでまた同じように鼻先で草むらを探っていました。何を思ったかふと頭を上げ、耳をピンと立てながら周囲の様子をうかがった後、ゆつくりと笹ヤブを抜けて林道までたどり着き、そこから岳沢方面へと消えていきました。5分間ほどの出来事でしたが、私は窓から窓へと移動しながらその一部始終を目で追い、久しぶりに見た野生のクマの美しさと風格に圧倒されていました。上高地はツキノワグマの生息地ですから、登山道のみならず散策路沿いや田代湿原、そして、山研からほど近い岳沢湿原でも目撃されますが、人との接触事故が起きたという話はまだ聞いたことがありません。私が上高地でクマを見

掛けたのはこれが6度目ですが、山研に来てからは外出の機会が減り、クマに会うこともありませんでしたが、ときどき聞こえてくる目撃情報から、どうやら近くの善六沢を移動ルートにしているクマがいそぐだと推測できました。まだ見ぬそのクマを、私はひそかに「善六」と名付けて常に存在を意識し、気配や痕跡に気を配り、夜間に独りで屋外に出るときには、五感をフル稼働していました。

「善六」がいよいよ山研の庭に現われたとき、真っ先に考えるべきは、人との接触を避けなければならぬということでした。「善六」はおそらく山研後方の沢伝いに下りてきて、そのままゆつくりと建物の脇をすり抜けて梓川の方へ向かおうとしていました。進む先には治山林道や歩道がありますが、平日の夕暮れどきということもあり、幸い目の届く範囲に人の姿はありませんでした。それでも、できれば山側へ戻ってほしいので、音を鳴らして追い払おうかとも考えましたが、逆に「善六」を驚かせてあらぬ方向へ走ってしまい、散策中の人と接触する可能性もあります。私は固唾をのんで「善六」を

見詰めながら迷っていました。

しかし、凶暴な生き物に豹変し得ることを考慮して見てもなお、そのときの「善六」には不穏な様子が見受けられず、何よりも彼自身が、人と出くわさないように気を付けてながら慎重に進んでいるようでした。クマにも性格や気性の違いがあるでしょうし、彼らの怖さや物語るエピソードや悲しい事故もたびたび耳にします。けれども、今回を含めて上高地で彼らに出会った際に、私を受けてきた印象と心の内を素直に告白するならば、彼らは不器用で悪意を知らず、たとえ臆病さゆえに牙をむくことがあつたとしても、私にとつてはやはり、ほかの動物たちと同じように愛すべき隣人なのです。

その後、「善六」に会うことはなく、近くに来ていいる形跡も今のところはありません。季節が進み、草丈はクマが隠れるほどの高さになってきましたので、草を刈り、食料やゴミを屋外に放置しないようにして彼らを建物に近付けず、鉢合わせして驚かすことのないようこちらが注意を払うことが、彼らの穏やかな暮らしを守ることになると思っています。

REPORT

宇野会員の蔵書「ぶな文庫」が北大山岳館へ

吉川正幸

約9000冊の蔵書を寄贈

北海道大学の構内は緑にあふれ、初夏の強い日差しも木陰の下では暑さを感じない。本年7月6日、北大山岳館の前庭で東京、関西から参集した山の仲間20名と北大山の会会員など多数が集まり、寄贈図書を受領式が行なわれた。

寄贈の対象となった、雑誌を含め約9000冊の「ぶな文庫」は故宇野彰男会員（会員番号14800）が、義父である故波木井三寅氏（勤労者山岳連盟ぶなの会所属）から継承した図書に、自身が生涯を懸けて蒐集した山岳関係の書籍などを加えたものである。

宇野君は2016年3月に、西穂高岳で雪崩に巻き込まれ67歳で亡くなった。彼は日本山岳会の図書委員会委員でもあり、アルパインスキークラブ会員でもあった。彼と1968年に慶應義塾体育会山岳部に一緒に入部して以来の山仲間であった私は、没後3年間で、彼の膨大な蔵書の行き先を求めて、全国の図書施設を訪ねた。その中

で唯一、まとまった形で受け入れに賛同してくれたのが、北大山の会の皆様であった。

「ぶな文庫」は、ご遺族から昨年11月、北大山の会に寄贈され、整理収納が進み、宇野君の奥様とふたりのご子息を迎えて、北大山岳館において受領式が開催されることになった。そこで、60名を超える北大山の会の皆様と宇野君と縁のあった山の仲間、芳賀孝郎氏など札幌在住の山の関係者が北大山岳館に参集したのである。

北大と慶大の登山交流

登高会は、慶應義塾体育会山岳部のOB会であり、北大山の会は、北海道大学山岳部のOB会である。双方の山岳部およびOB会は、近代登山の黎明期からの山岳会として、永年にわたり交流を続けてきた。私は、宇野君の書籍を北大山岳館に寄贈することになったのは、偶然ではなく、積み重ねられた深い縁によるものとの想いを強くしている。長い交流の一端を以下に紹介する。

話は100年前に遡る。日本で初めての登山者による「松尾峠の遭難」によって、大正12（1923）年1月に板倉勝宣氏が亡くなられた。板倉氏は、学習院高等科を経て北海道帝大農学部卒。北大山岳部と学習院大山岳部の創始にも関わっている。そのときに同行していたのは横有恒、三田幸夫（ともにのちの本会会長）である。ふたりは慶大山岳部の創設時のメンバーでもあり、当時から北大、学習院大との交流があった。

2017年秋に、私は北大山の会の空沼小屋の再建記念の会合に招かれたが、その際に、北大山の会の皆様にお願ひしたことが、今回の蔵書寄贈の端緒となった。そもそも、私が空沼小屋に招かれた理由は、60年前に、当時の北大山岳部の渡邊興亜氏（元極地研究所所長）が、学生の岡部紘先輩（元日本山岳会常務理事）を北大恵迪寮に招いて、一緒に山に登ったことに始まる縁によるものであった。

北海道の山岳情報センター

北大山岳館は、北大山の会が20年ほど前に山岳部創立70周年を記念して建設し、大学に寄贈した立派な山小屋風の建物である。従来

からの所蔵書に宇野君の蔵書を加えて、膨大な所蔵資料を持つことになった。「山と溪谷」「岳人」「アルプ」などの雑誌も、初号から所蔵している。書籍数は、日本山岳会の図書室にも匹敵するものとなり、東北・北海道の山岳情報センターとなったと言えよう。

北大山岳館は北大山の会が管理し、毎週水曜日と土曜日には、だれでも利用できる。札幌に行かれた方は、ぜひ立ち寄って見学・利用されたい。その際に、宇野君の蔵書の棚に気付くかもしれない。それは、山の仲間同士の100年もの交流による結実である、と思ひ出していただければ幸いである。



「ぶな文庫」は、北の大地の山岳図書館に収蔵されている

NEW WORKS

中村 保さんが『空撮ヒマラヤ越え 山座 同定』を出版

薬師義美

3年前に、大労作『ヒマラヤの東 山岳地図帳』を上梓した中村さんが、息継ぐ暇もないように、また大著を公開した。ただ頭が下がるのみ。

ヒマラヤの空撮で有名なのは、1933年のイギリスのヒューストン女史が主唱した計画で、プロペラ単発複葉機2機をインドまで飛ばし、4月にガンジス河畔のプルネアから2度、エヴェレストま

で往復させた。ちょうどラトレッジ隊長の登山隊が北麓にベースを建設したところであった。

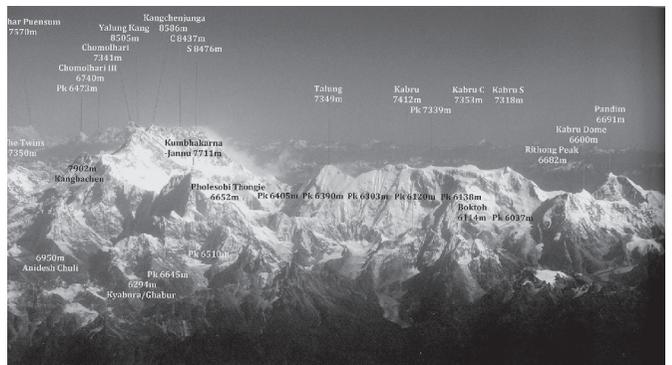
ネパールでは1969年ごろから毎早朝、エヴェレストを眺める「マウンテン・フライト」がカトマンズ空港から出ている。また、カトマンズからポカラ間の空路でも、北側にヒマラヤがオンパレードする。しかし、これらの決まったルートでは、翼の入らない窓側の座席をいかに確保するか、天候も味方してくれるかなど、撮影条件はなかなか厳しい。かつてのフィルム・カメラでは、その交換に大わらわだったのが、今はデジカメ。大容量のSDカードで、連写も容易となった。特別に意図する空撮には、ネパールでは小型機(ピラタスなど)やヘリコプターをチャーターする手もある。

さて本書は、中村さん自身と友人たちが、ヒマラヤ越えのルートをいく度も飛んだ経験を集大成。四川省の成都からラササへ、青海省

の玉樹、カトマンズからポカラ、ラサへ。また、西チベットの阿里へと、次々に現われるパノラミック・ビューは、息をのむばかりで圧巻である。そして、すばらしいパノラマに加え、副題になっている「山座同定」が極めて重要になってくる。自分が関わり、見知っている山域ならば、なおさらである。

そこでページを繰っていると、気になる所が出てきた。まず18ページのGlacier DomeをTare Kangは同一ピークで、7069m。英語名はイギリスのJ・ロバーツの命名で、これを1984年にネパール観光省が改名。Tare Kangは地元のゲルン語で「白い山」の意味と言う。新地図(2001年)でネパール測量局がこれを「Tare」と誤記した。7165mはどこからの数字か。TitchoはTritso Himalで高度は7134m。19ページのNigiri WestはNorth。21ページの右端の山はTärke Kang=Glacier Dome、7069mとし、右端は無名峰で、標高のみとする。

さらに58ページ、カンチェンジュンガの南のカブルーについて。インドとネパールの国境上にあり、



本文58ページ、カブルー山群のパノラマ

南北約4kmと長い山頂部に4つのコブを持つ。本書の写真はこれで見えたものでは最も明瞭に描写されている。ここでは北を最高峰(写真の左側)として7412m、次いでピーク7339m、中央峰7353m、南峰7318mとしている。

ネパールの新地図(5万分の1、1997年)は北から7235m、最高峰7412m、南峰7318mと、3つの測点を与えている。これに対して、カトマンズで刊行さ



れたトレッキング用『カンチェンジュンガ』（12万分の1）では、北から北峰（I峰）7412m、II峰7339m、III峰7338m、南峰（IV峰）7318mとしている。

これらのほかにスイス山岳研究財団の地図（10万分の1、1955年）は、南から北に△7317m（I峰＝南峰）、△7338m（II峰＝北峰）、△7341m（III峰）、△7353m（IV峰＝北西峰）、△7129m（V峰）とする。また、本会東海支部発刊の『インド・ヒマラヤ』（2015年）は北から△7278m、△7353m（III峰）、△7338m（II峰＝北峰）、△7317m（I峰＝南峰）としている。しかし、以上のように資料を集めたものの、それらの呼称、数値をどうまとめるか、自分には難しい。一方、登山の記録はインド側からだけである。1935年秋、イギリスのC・R・クークが「北峰（7338m）」（本書の写真の「中央峰（7353m）」に初登頂した。ネパールは最近になって登山を解禁。だが、攻撃はインド側からだけで、インド陸軍隊が1994年5月に登った記録がある。すなわち、10日に北峰（II峰、7338

m）に登頂、12日に南峰（I峰、7317m）に初登頂、同日にIII峰（7395m）にも初登頂。翌13日には南峰・III峰・北峰にダメ押しの登頂をした。III峰が最高峰だと記録報告は言う。

最後に、本書は『ヒマラヤの東山岳地図帳』とともに日本山岳会の支援を受けて、後世に残る立派な大労作となった。1990年からヒマラヤの東、チベット地域に四十数回も足跡を印し、世界の15ヶ国で三十数回もの講演をしてきた中村さんの実績・功績は、日本の山岳界の成果としても燦然と輝き、不朽のものになることは確かである。

【『空撮ヒマラヤ越え山座同定』2019年5月、ナカニシヤ出版刊、菊倍判、フルカラー234ページ、定価8000円＋税】



スズラン

NOTICE
日本山岳会会員としての矜持をもって活動を「落書き事件」の顛末から

京都の修験宗総本山聖護院門跡から連絡が入ったのは、ゴールデン・ウィーク明けのことでした。奈良の前鬼山、その裏行場修行場に「JAC」と書かれた落書きがあったというもので、写真が2点添付されていました。裏行場の自然石に「JAC 前鬼山 令和元年五月」と書かれた写真と、同じ筆遣いで鳥の絵が描かれているものです。

前鬼山裏行場修行場は大峯山を縦走する大峯奥駈道にあり、神聖な修験道の修行の道であるとともに、世界遺産「紀伊山地の霊場と参詣道」にも登録されており、さらに「吉野熊野国立公園」の「特別保護地区」にも指定されています。

連絡を受けたときには当会会員の落書きだとは分からなかったのですが、知らせを受けて関西支部では、聖護院で得度されている前鬼小仲坊住職の五鬼助義之氏と相談して、雨天ではありませんでしたが、6月15日に現地の清掃を行いました。件の石は川底にあり、見付けた一つの落書きを消してきました。

23日になって、落書きを書いた会員本人（関西支部員ではない）から謝罪の電話が入りました。22日に山行リーダーと現地に行き、改めて2つの石の落書きを消してきたこと、また、五鬼助氏にもお詫びをしてきたというものでした。

当人は、河原であるためすぐ消えると思って筆と墨汁で書いたと話していました。しかしながら、消えるからといって、自然石に落書きをしてもいいという問題ではありません。法に触れるような行為ですし、なによりも、修験道者などへのリスクが欠けています。当人の事件後の真摯な反省の態度や関係者各位の寛大なお気持ちを読み取り、今回は厳重注意に留めましたが、今回、会員による小屋やホテルなどでの節度を欠いたふるまいが複数伝わってきており、ときにはネットを介して知ったこともありました。そのような状況に鑑み、会員のモラルの問題として、敢えて発表することにしました。すべての会員は、百十余年の歴史を有する日本山岳会会員としての矜持をもって活動していただきたく、お願いいたします。

（日本山岳会理事会）

活動報告

日本山岳会の各委員会、同好会の活動報告です。

図書委員会

第44回山岳史懇談会「山人70年に想つ」

去る6月14日(金)、当会104号室にて18時30分より、このたび『エヴェレストが教えてくれたこと』を上梓されたばかりの平林克敏会員に、表題の山人史を語っていただいた(参加者25名。会場で著書も頒布)。

日本人として初めてエヴェレストに登頂された平林会員、当日はまず自身の中学から高校時代にかけて恩師の下で地球の気象など熱心に学ぶ延長線に、ヒマラヤやアンデスといった、海外の山に惹かれていった少年時代を紹介。そして、東京の大学における上下関係の異様に厳しい山岳部の様子を敬遠し、同志社大に入学。そこですますます登山だけでなく学術的にも山を考える機会に恵まれ、ヒマラヤへの

挑戦が具現化していく背景を語られた。

「登山というのはその人の持つている天運が一番最後には働くのでは？」また、「登山の中で培うものは人柄とか、ほかのスポーツとは全く異なる資質が育てられると思う」といった、膨大な経験と努力の末に語られる言葉は重い。そして、自然を介して育つていくすばらしさを山に無縁な人にいかに伝えていくは大変難しいが、それもまた日本山岳会の仕事と考えている、と話された。

最後にこれまでの経歴と登山人生を裏付けるような「計画は大きければ大きいほど良い」「必要に迫られれば、解決しようと努力する」という力強い言葉で締めくくられ、20時過ぎに終了した。

(中村好至恵)

山行委員会

小豆島八十八ヶ所歩き遍路

昨春秋に四国八十八ヶ所歩き遍路1200kmを結願して、今回、小豆島遍路に参加した。

総距離約141kmを3月31日から4月6日までの7日間の日程で歩いた。

桜(寺ごとに種類の違う桜が植えてある)のシーズンで少し寒い中、小豆島土庄町霊場会総本院に3月31日12時15分に集合した。

リーダーを含め参加者8人。身の回りの準備を終え、午後から小豆島遍路に出発した。

歩き出して200mほどで、初めの札所64番松風庵。道迷いしながら細い階段を登り、7分咲きの桜を見ながら境内に着く。無人の庵の参拝を終え、高台の境内から見る瀬戸内海の島々、本州、そして、風光明媚な小豆島、すばらしい眺めだ。

「お堂」、「庵」の名前の札所が多く、さらに無人で納経所がないので、御朱印をいただける寺で、まとめて納経帳に御朱印してもらおうセルフサービスで御朱印した寺もあった。宮城支部から普化宗の方

が参加され、尺八の音が般若心経とハーモニイを奏でた。

バスでの団体遍路や歩き遍路の人も少なく、静かな雰囲気でも四国遍路との違いを強く感じながら、次の札所へ。気温は低く境内の桜も長持ちして、どこの札所も桜が散ることもなく迎えてくれた。

2日目、今回一番長い距離27.4km、19札所を回るので、朝、早めのスタート。道の両側には小豆島特産のオリブ油、醤油、そうめん、つくだ煮の店、工場が立ちここに。そして山道は、特産のオリブやミカン畑が点在する中を歩く。72番札所奥ノ院の笠ヶ滝、鎖での急な登りと驚きの大きさの洞窟霊場、先人がこの険しい岩場によく造つたものだと感じする(後で思い出すと1番洞雲山、18番石門洞も記憶に残る洞窟霊場だった)。

札所順に歩くことはできず、リーダーも大変だ。地図を見ながら札所探し、今日最後の80番観音寺に着く。17時を過ぎていたが、住職の好意で御朱印をもらい、残り宿までは2.6km。「歩き遍路」なのだが遅くなるので宿まで車に乗る。明日ここまで戻り、歩くこと

になる。

3日目、26・1km、10札所を歩く道のり。「遍路ころがし」は大変だが順調に歩き、宿に着くと早速風呂に入り夕食。すぐ就寝し、朝まで爆睡する。今夜は食後、宿の好意で「豆まき」(宿の人が投げのお菓子、飴、せんべいなどを丸く陣取った客が取りつこする)があり、童心に返り楽しんだ。

4日目は朝から良い天気。歩く距離も短くなり、満開の桜を楽しみ、さらに映画『二十四の瞳』の岬の分教場まで足を延ばした。

歩き始めて7日目(4月6日)、残り半日。54番札所宝生韻の世界一といわれる樹齢1700年の真柏の巨木を見て、残り少ない道を昼までに土庄町霊場会総本院に戻り、結願となる。

その後解散した。小豆島遍路を終えてみると、道中の苦しいことも忘れ、機会があればまたチャレンジしたいと思った。最後に先達の数見さん、杉崎さん、皆さんお世話になりました。感謝申し上げます。

(常本良一)

支部



だより

全国各地の支部から、それぞれの活動状況を、北から南へとレポートします。

埼玉支部

第5次玉原高原ブナ林・湿原、雨乞山自然観察会報告

昨年10月中旬、日本山岳会埼玉支部と群馬支部自然保護委員会共催の第5次玉原高原ブナ林・湿原観察会および雨乞山観察会を実施したので報告する。

10月13日(土)

JR沼田駅11時20分集合、レンタルバスで玉原高原センターハウスへ。12時45分、探鳥路に入り、ブナ平―水源ルート―湿原―玉原湿原水量調整堰と巡り、センターハウス帰着3時30分。当日は川場村民宿(福寿草)泊。

センターハウスから探鳥路に入りブナ林を行く。足下にはクリのイガがたくさん落ちていて、「熊がブナの木に登るときに付けた斜めの痕、因みに降りるときは傷は縦に付く。ブナは年間3mmほど太

くなるのでこの木は60cmなので樹齢200年くらい。また、ホオノキとトチノキの葉の形、アスナロとヒノキの違いを聞く。ブナの林はキノコの宝庫である、食べられるキノコを学ぶのはリスクがあるので毒キノコを知ろうと、凶鑑を頼りに自然観察指導員である村越さんと確認する、キリンタケ、クロトマヤタケモドキ、クロタマゴテンゲタケを確認できた。生死に関わる食べられるキノコについてはさらに勉強が必要だ。

湿原との分岐の指導標は見事にクマにかじられている。シンナーの香りが好きなのか異物に興味があるのかクマに聞きたい！最後までクマ棚は見付けることはできなかった。

花の季節が終わった秋の湿原はヌマガヤで彩られていた。木暮さんは湿原調整堰まで足を延ばし、希少植物「ツルリンドウ」の花を

我々に見せてくださった。観察会はこれで終了。群馬支部は翌日に尾瀬行きがあるので、ハウス前で北原支部長の挨拶をいただき、解散した。

10月14日(日)

川場村・中野登山口8時45分発。林道―白沢村分岐―雨乞山―11時50分登山口帰着。14時37分JR沼田駅(解散)

林道をしばらく歩くと、この山にもクリのイガがたくさん落ちている。クマが最近出たとの話に納得する。所々にトラロープも張っており、注意しながら最後の急登

を越すと雨乞山の頂に着いた。

山頂からは最終間氷期（20万年前）を経てできた水域（古沼田湖）によって形成された沼田面（10～15万年前）、井閑面（6万年前）、貝野瀬Ⅰ～Ⅲ面（3～1.5万年前）、低位面（1.3～1万年前）の7段の段丘が片品川（利根川支流）に沿って発達している様子が分かる。向かいの三峰山が上州武尊山の溶岩台地であることも理解できた。雨乞山は地学の勉強には最適な山であると思つた。

山頂からは直接林道へ出る道もあるが、登山口から同じ中野登山口に下山した。登山前に川場村の東国花の寺群馬11番の「吉祥寺」を訪ねたが、開門時間前で参拝はできなかった。（村越百合子）

越後支部

新・旧会長を迎えて―高頭祭と弥彦山たいまつ登山祭

越後支部では、毎年7月25日に「高頭祭と弥彦山たいまつ登山祭」を実施している。本年は高頭祭が62回、弥彦山たいまつ登山祭が66回を数える。

高頭祭とは、越後長岡出身の日

本山岳会創立メンバーで第2代会長を務めた高頭仁兵衛翁の遺徳を偲ぶ行事である。また、弥彦山たいまつ登山祭は、国の重要無形民俗文化財に指定され、五穀豊穰などを願って1000年以上続くとされる「弥彦灯籠まつり」に合わせ行なわれ、越後一之宮弥彦神社の山頂奥之院から弥彦灯籠まつりのご神火として麓の神社本殿にたいまつを掲げて運び、お祓いを受けた後に参道から弥彦市街への行進を行なう壮大な儀式である。

今年度の来賓は、日本山岳会から古野淳会長と日本山岳・スポーツクライミング協会から八木原剛明会長（日本山岳会群馬支部委員）をお迎えするとともに、小林政志前会長、野澤誠司副会長、坂井広志副会長も出席していただいた。

越後支部・山崎幸和元支部長の案内で、古野、八木原の各氏と桐生恒治越後支部長らは、弥彦神社社務所を訪ねて渡部吉信宮司に挨拶を行なった。その後、車で山頂駐車場に向かい、ここから歩いて15分ほどで会場に到着。真夏の日差しが強く大汗をかかすが、日本海からの爽快な風が心地良い。

14時30分、高頭祭開催。参加者は

支部会員と一般参加者合わせて約80名が集まっていた。小泉良夫事務局長の開式宣言後、桐生支部長の挨拶があり、日本山岳会の古野新会長、小林前会長、野澤副会長、坂井副会長、日山協八木原会長の紹介があった。高頭祭でこのような豪華メンバーが参加されるのは初で、越後支部会員から感謝の拍手が起こった。

紅白幕で飾られた高頭仁兵衛肖像前で、例年同様、越後支部名誉会員・平田大六氏が本職かと見間違うばかりの神官役を務め、祝詞や御祓いを肅々と執り行ない、玉串奉納は15名もの多数となつてしまった。神事終了後、古野会長から記念講演を行なっていた。講演要旨は、高頭翁が設立間もない日本山岳会への財政支援に対する功労と古野会長が会長就任に当たって①遭難防止について、②山岳文化について、③支部活動について、④自然保護についての4つの柱を推進することを熱く語っていただいた。16時、弥彦山山頂へ移動を開始。17時、弥彦山頂奥之院で新潟県安全登山祈願祭が弥彦神社神官により執り行なわれた。

17時30分、日本山岳・スポーツ

クライミング協会八木原会長の記念講演が行なわれた。登山人口は1000万人いると言われているが、大部分が未組織登山者の状態で、事故や遭難を起こす事例が多発している。中高年登山者対策も必要命題であると訴えた。

一方、近年はスポーツクライミング人口が非常に増えてきた。来年の東京オリンピックにスポーツクライミングが採用されたことで、若い人たちに競技としてのクライミングが注目されている。オリンピック出場を目指し、若い選手が世界的なレベルで活躍している。

さらにそれに続く小・中学生の若い世代が多く育ってきており、非常に楽しみな状況である、と話された。

18時30分からたいまつ登山の行列が山頂から下山を開始し、麓の弥彦神社を目指す。参加者は新潟県山岳協会加盟団体を中心に約170人。途中の山麓登山口から新しいたいまつに交換して、ここから地元ボーイスカウトの鼓笛隊に先導され神社本殿にご神火を届ける。20時30分にJR弥彦駅到着後解散。その後、弥彦村民ホールで打上げ慰労会、懇親会と続き、24時ごろお開きとなった。

翌26日は、桐生支部長をはじめ支部役員が古野会長、小林前会長、坂井副会長をご案内して、高頭家菩提寺の大滝山正林寺にて高頭翁の墓参をしていただいた。その後、すぐ近くにある旧高頭家屋敷跡を訪れた。郷土の発展にも尽力した高頭翁の功績を後世に伝えるべく、巨大な仙台石の頌徳碑が目を引きつけた。石碑正面には、「頌徳几翁高頭仁兵衛の碑」とあり、裏面には「子孫ノ為ニ美田ヲ買ワズ」と翁の心境が刻まれてあった。

(玉木大二朗)



図書紹介

山本良三著

南アルプスからヒマラヤへ パイオニア精神への まなざし



2018年1月26日
山と溪谷社
四六判589ページ
3500円+税

本書は、山の本を一冊残したいという熱い思いから書かれたもので、出版から時が経過しているが、論じられるのは登山論、JAC・大学山岳部の問題、人との出会いで、会員諸氏には有益な指針となるだろうと、改めて紹介したい。

内容は「I・ヒマラヤ、II・旅・紀行、III・登山論ほか、IV・人物素描、V・登山界の群像」からなる大冊である。本書の半分ほどはJ

ACが敗戦の苦難から立ち上がり、最も花開いた時代の27人の登山家と、さらに数多くの登山家との交流が描かれている。が、ここでは「登山論」の一端に触れてみたい。

著者の登山論の中核をなすのは「パイオニア精神」である。もともと山そのものよりも、山の初登頂を目指す人間に興味があったとも言える。未知の探究に挑む夢や希望を抱く人の姿は眩しい。登山は鍛えられた身体と技術の上に、そこに情熱とロマンが加えられて実現されるものであり、それが人と人の関係へと広がっていく。

しかし、苦い思いも味わった、クランフン峰での失敗である。この失敗を自己批判して、山というものを根源的に思索、考えるようになったと正直に反省する。また、登山論には現代の若者に対する嘆き

会を考える」というダイレクトな項目があつて、若者を呼び込むこと、透明性と公平性を担保することなど、当会を分析して、会員には耳の痛いことも書かれている。自分の判断基準が古びていないか、議論してみてもいいかがか。

さて、300ページにわたる多彩で広範な人との出会いの素描はすばらしい。読者によって違う印象を持たれる人、その人の新たな姿を見る人もいるだろう。ここにも随所に、著者の登山観が述べられる。この人的ネットワークを見ると、山は人で登ることを実感させてくれる。年配の会員には登場する人々を思い浮かべ、年若い会員にはぜひ会の財産たる人と人のつながりの大切さを感じ取ってほしい。

辺境は観光となり、登山は商品となつて消費されていく。今一度登山とは何かということ仲間と論じ合う、そんなとき、企業人の気概と登山家としての矜持を持ち続け、登山人生を全うしてきた著者だからこそ書くことができた、本書をお薦めしたい。好書一冊。

(絹川祥夫)

図書受入報告(2019年7月)

| 著者 | 書名 | 頁/サイズ | 発行者 | 発行年 | 寄贈/購入別 |
|-------------------------|--|-----------|---------------|------|---------|
| 山本正嘉・猪熊隆之(監修) | 最新!登山の科学 : 山を安全に楽しむための基礎知識 | 112p/29cm | 洋泉社 | 2019 | 出版社寄贈 |
| 山崎晴雄 | 富士山はどうしてそこにあるのか : 地形から見る日本列島史(NHK出版新書) | 239p/17cm | NHK出版 | 2019 | 出版社寄贈 |
| 小林千穂 | 山人生い加減 : 登山家・高橋和之(ダンブさん)の歩んだ道 | 248p/19cm | 信濃毎日新聞社 | 2019 | 出版社寄贈 |
| 安曇野山岳美術館(編) | 山岳画の父 足立源一郎展 : 生誕130年記念 | 26cm | 安曇野山岳美術館 | 2019 | 発行者寄贈 |
| 鈴木みき | 山登り語辞典 : 登山にまつわる言葉をイラストと豆知識でヤッホーと読み解く | 176p/21cm | 誠文堂新光社 | 2017 | 出版社寄贈 |
| 渋谷茂 | 立山物語 | 415p/19cm | 渋谷茂(私家版) | 2017 | 著者寄贈 |
| 朝比奈耕太(編) | 日本百名山・世界遺産の山 : 詳細ルートガイド(エイムック No.4379) | 144p/26cm | 柘出版社 | 2019 | 出版社寄贈 |
| シェルバ斎藤・池田圭(編) | ニッポン10大トレイル : シェルバ斎藤 | 256p/21cm | 柘出版社 | 2019 | 出版社寄贈 |
| 安西水丸 | てくてく青空登山 (Murren Books No.1) | 128p/19cm | ミュレン編集部 | 2019 | 出版社寄贈 |
| 真木太一 | 75歳・心臓身障者の日本百名山・百高山単独行 | 165p/21cm | 海風社 | 2019 | 出版社寄贈 |
| 伊藤努(編) | アルプス : 登ろう!アルプス1年生 | 106p/30cm | ネコ・パブリッシング | 2019 | 出版社寄贈 |
| 伊藤努(編) | 八ヶ岳 : 八ヶ岳を歩き尽くそう!全73区間登山道パーフェクトガイド | 106p/30cm | ネコ・パブリッシング | 2019 | 出版社寄贈 |
| 山本峻秀 | 美ヶ原讃歌 : 山頂に生きて半世紀 | 272p/19cm | 実業之日本社 | 1982 | 城島紀夫氏寄贈 |
| 中央大ワングル部OB会 | 遍歴 : 中央大学ワンダーフォーゲル部 40年の歩み | 430p/22cm | 中央大ワングル部OB会 | 1991 | 城島紀夫氏寄贈 |
| 鈴木波男(編) | 道標 : 北海道大学ワンダーフォーゲル部創部50周年記念誌 | 413p/30cm | 北海道大ワングル部OB会 | 2005 | 城島紀夫氏寄贈 |
| Cordes, Kelly | The Tower (ハングル版) | 510p/24cm | Haroojae Club | 2019 | 発行者寄贈 |
| Honnold, A. Roberts, D. | Free Solo (ハングル版) | 408p/24cm | Haroojae Club | 2019 | 発行者寄贈 |
| Bonington, Chris | Ascent (ハングル版) : A life Spent Climbing on the Edge | 600p/24cm | Haroojae Club | 2018 | 発行者寄贈 |



**令和元年度第4回(7月度)理事会
議事録**

日時 令和元年7月10日(水)19時00分～21時00分

場所 集会室

【出席者】古野会長、野澤・山本・坂井各副会長、永田・古川各常務理事、安井・清登・神尾・清水・飯田・柏・近藤・波多野各理事、黒川・石川各監事

【欠席者】萩原常務理事

**寄附金及び助成金などの受入報告
(令和元年6月30日まで)**

| 寄附者など | 受入金額など (単位千円) | 寄附の目的、 その他 |
|--------------|------------------|---------------|
| 小林 政志 理事 | 10 | 日本山岳会 運営費 |
| 株式会社 モンベル | 50 | 山の マナーノート |
| 少額寄付者 1名 | — | 山の マナーノート |

【オブザーバー】節田会報編集人

【審議事項】

1・令和元年度支部助成金等および新入会員報奨金の送金について
令和元年7月中に、各支部に支部助成金等622万円、新入会員等獲得報奨金70万円、合計692万円を送金することについて審議した。(賛成14名、反対なしで承認)

2・「委員会規程 別表(C-14)」の見直し(永田)
実情に合ったものに見直し、12月理事会にて改正決議予定。

【報告事項】

1・正会員11名、準会員7名の入会希望者を承認したとの報告があった。(古野)

2・委員会等の担当理事の任命について報告があった。(古野)

3・寄附金および助成金受入3件に関する報告があった。(古川)

4・委員長の委嘱状況記載の変更について報告があった。(永田)

5・支部合同会議の議題提出に関する依頼があった。(永田)

6・自然保護全国集会開催について報告があった。(飯田)

7・国際委員会新委員長に中山茂樹会員が就任。(古野)

8・図書委員会新委員長に神長幹雄会員が就任。(近藤)

9・自然保護委員会新委員長に谷内剛会員が就任。(坂井)

10・「山の日」事業委員会委員長に成川隆顕会員が就任。(清登)

11・科学委員会委員長に平野裕也会員が就任。(近藤)

12・YOUTH CLUB新委員長に星征雅会員が就任。(野澤)

13・家族登山普及委員会新委員長に五十嵐百子会員が就任。(野澤)

14・山研運営委員会新委員長に和田薫会員が就任。(安井)

15・その他の留任する委員長について各理事から報告があった。(永田)

16・会員による前鬼山の落書きについて報告があった。(永田)

17・全国支部懇談会での喫煙について報告があった。(永田)

18・カシオのPRW-50の追加販売について報告があった。(永田)

19・登山届提出状況について報告があった。(山本)

20・不要になったクライミングロープのリサイクルについて報告があった。(永田)

21・「山」7月号の発行について報告があった。(節田)

【連絡事項】

1・事務局からの依頼・連絡事項

2・秋田支部設立60周年記念祝賀会

3・第66回弥彦山たいまつ登山

4・「公益法人の各機関の役割と責任」配付

ルーム目誌 7月

- 1日 同好会連絡会議 スキークラブ
- 2日 常務理事会 スケッチクラブ
- 3日 図書委員会 山行委員会 YOUTH CLUB
- 4日 YOUTH CLUB 山岳地理クラブ
- 8日 YOUTH CLUB スケッチクラブ
- 9日 山岳研究所運営委員会 フォトクラブ
- 10日 理事会 休山会 山想倶楽部
- 11日 財務委員会 九五会
- 12日 YOUTH CLUB
- 16日 スキークラブ 沢登り同好会Ⅱ
- 17日 三水会 つくも会
- 18日 科学委員会 みちのり山の会 マウンテンカルチャークラブ
- 19日 支事業委員会 科学委員会 医療委員会 遭難対策委員会 フォトクラブ

山の自然学研究会

- 20日 緑爽会
 - 22日 総務委員会 会報編集委員会 平日クラブ
 - 23日 デジタルメディア委員会 遭難対策委員会
 - 24日 家族登山普及委員会 「山の日」事業委員会 麗山会
 - 25日 学生部 山遊会
 - 26日 公益法人運営委員会 フォトクラブ
 - 29日 青年部
 - 30日 自然保護委員会 記念事業委員会 平日クラブ 7月来室者 529名
- 会員異動**
- 物故**
- 高本 孝(4553) 19・7・19
 - 菰田 快(5668) 19・7・5
 - 望月翠行(6686) 19・7・4
 - 斎藤宣雄(12254) 19・7・26
- 退会**
- 星野勇介(13369)
 - 古川一郎(13458) 宮崎
 - 鈴木清一(14721) 栃木
 - 岩田哲也(15740) 広島
 - 丸山広幸(A0042) 東京多摩

I N F O R M A T I O N

インフォメーション

◆登山と健康―講演会のお知らせ
医療委員会

健康登山塾の齊藤繁氏に、登山と健康について講演をしていただきます。安全に、健康に登山をされた方は、ぜひご参加ください。
日時 10月17日(木) 18時45分～20時45分

講師 齊藤繁氏(群馬大学医学部)

題名 登山と健康―群馬支部の健康登山塾の紹介を併せて―

場所 プラザエフ3階(東京・JR四ツ谷駅麹町口駅、徒歩1分)

募集 60名
締切り 10月10日(定員に達し次第締切り)

資料代 500円
申込み・お問合せ ☎: yamainyou

@yahoo.co.jp 葉書: 18

8-0011 西東京市田無町4-15-36 野口いづみ

HP: <http://www.jac.or.jp/info/>

◆中ア・空木岳―檜尾岳―宝剣岳―木曾駒ヶ岳縦走 山行委員会

inkai/iryuu/1st.html

中央アルプスのメインルートの空木岳から木曾駒ヶ岳までの縦走に挑戦してみませんか!

日程 9月20日(金)～22日(日)

集合 20日(金)JR飯田線・駒ヶ根駅に5時50分(6時00分発のバスに乗車)

行程 20日⇨駒ヶ根駅⇨駒が池バス停⇨池山林道終点⇨池小屋⇨マセナギー⇨空木

平分岐⇨空木岳⇨木曾殿山荘(泊) 21日⇨木曾殿

山荘⇨東川岳⇨熊沢岳⇨檜尾岳⇨宝剣岳⇨宝剣山

荘(泊) 22日⇨宝剣山荘⇨中岳⇨木曾駒ヶ岳⇨横

山バス停⇨みはらしの湯

⇨伊那市駅(解散)

歩程 20日〓約8時間20分

21日〓約6時間55分

22日〓約5時間15分(健脚向き)

費用 2万5000円(山小屋代・タクシー代・保険料など)

定員 先着9名まで

申込み 8月22日(木)までに、三枝光

吉宛

☎080-6627-5687

✉sanke@jac.or.jp

*傷害保険加入のため、性別・生年月日をお知らせ下さい。また、参加者名簿作成のため会員番号、住所、緊急連絡先(続柄)、電話番号、携帯電話番号などお知らせ下さい。

◆白神山地ブナ林再生事業と自然観察会

青森支部

世界遺産・白神山地のバッファ

ーゾーン周辺の生育不良杉林地をブナ林に再生するための除伐や植樹などの作業、および同ゾーン周辺の生育不良杉林地をブナ林に再生する原生ブナ林の観察会を行なう。寝袋、食料必携。テントはこちらで用意可。

日程 9月21日(土)〜22日(日)

集合 21日8時JR弘前駅城東口

および10時30分奥赤石林道ゲート

解散 22日15時奥赤石林道ゲート、

17時30分弘前駅送迎可

経費 5000円(傷害保険料込み、当日徴収)

定員 30名

申込み ハガキかFAX(017

2-447237)か☎で須

々田秀美宛(〒036-0

103 平川市本町北柳田

96-2 ☎h.susuta@gmail.com)9月12日までに

◆畦地梅太郎ーわたしの山男展

町田市立国際版画美術館

山の版画家・畦地梅太郎の作品に登場する表情豊かな山男たちが

町田名誉市民でもある畦地の「山男」シリーズを中心とした、約10

0点を展示します。

期間 7月6日(土)〜9月23日(月)・

榎 月曜日休館(ただし7

月15日、8月12日、9月16

日、9月23日開館 翌火曜

日の7月16日、8月13日、

9月17日は休館)

開館

平日〓10時〜17時 土・日・祝日〓10時〜17時30分

観覧料 一般〓800円(団体5

00円)、大学・高校生と

65歳以上〓400円(30

0円)、中学生以下無料

*詳細はHPで

◆富士山ー芸術の源泉ー展

主催〓中村屋サロン美術館

協力〓公益社団法人日本山岳会

会期 7月20日(土)〜9月8日(日)

会場 中村屋サロン美術館(新宿

3丁目・中村屋ビル3階)

開館 10時30分〜19時(火曜休館)

横山大観、川合玉堂をはじめと

して絹谷幸二、櫻井孝美など日本

画、洋画の大御所42名の作品が並

んでいます。富士山を描いた絵の

展覧会は今までにもありませんが、

富士山だけで、これだけ多くの作

品を並べた展覧会は初めてです。

8月11日の「山の日」に合わせて開

かれました。ぜひご覧になってく

ださい。

◆編集後記◆

●夏山第1弾は、黒部五郎岳〜三

俣蓮華岳の縦走でした。春雪がた

くさん降った上に気温が低かった

ので残雪が多く、北ノ俣岳のハク

サンイチゲの大群落が見事でした。

さらに黒部五郎岳カールと、丸

山・双六岳間のコルから双六小屋

に至る「中道」のお花畑のコバイケ

イソウ群落が開花で、白い綿帽子

が一面に林立する様は壮観でした。

●コバイケイソウは花が「梅」に、葉

が「蕙」(紫蘭の古名)に似ている

ことから名付けられたとのこと。

花を咲かせるには十分な栄養が必

要で、数年に一度しか咲かないと

言われています。そのためか、コ

バイケイソウが満開の年は雨が多

い、とも言われますが、雨に降ら

れながらも、2つの大群落は一

見の価値あります。(節田重節)

日本山岳会会報 山 891号

2019年(令和元年)8月20日発行
発行所 公益社団法人日本山岳会
〒102-0081
東京都千代田区四番町5-4
サンビューハイツ四番町
TEL 東京(03)3261-4433
FAX 東京(03)3261-4441
発行者 日本山岳会会長 古野 淳
編集人 節田重節
E-メール:jac-kaiho@jac.or.jp
印刷 株式会社 双陽社